



—東北生産性本部—

# 労使定例政策研究会第1回例会開催

今年度の労使定例政策研究会は、現代社会の課題である『社会の変化にどう向き合うか』を大テーマとして、「人口減少社会、ユビキタス社会、格差社会、歴史から学ぶ」の4回シリーズで開催をすることとし、去る9月12日（水）に第1回例会を開催いたしました。



## ■第1回例会(9月12日開催)47名参加

☆テーマ —人口減少時代—

「限界集落の実態と新たなコミュニティ」  
～東日本大震災後のコミュニティ再生～

☆講師 公益財団法人 東北活性化センター

調査研究部 専任部長兼主席研究員 大泉 太由子 氏

宮城県仙台市青葉区本町二丁目六番十二号 <http://www.t-productivity-ce.jp> HP 掲載中

我が国は人口減少社会に突入したと言われておりますが、国の推計では東北七県の人口は2010年の11,738千人、高齢化率25.5%から2035年には9,304千人、高齢化率は36.4%に推移するとなっております、これは今後20数年で東北七県から現在の宮城県の全人口が減少するということでもあります。この人口減少により集落（地域コミュニティ）が抱える課題として高齢者の増加、インフラの減少等が上げられ、行政サービスの限界等から地域自らの力で地域課題を解決することが求められております。これらの解決には「コミュニティ同士の支え合い」「人とのつながり（絆）」がポイントであるといくつかの成功事例を交えながら大泉先生から説明がありました。

一方、震災後の復興のポイントとしては、前述の二つのポイントのほかに「地域特性に即した多様なまちづくり」や「地域課題を解決するための事業」「農業・漁業の再生のための協業、機械や船の共同利用」や「市民ファンドによる支え」などによる雇用の創出との説明がありました。現代社会は「ソーシャル・イノベーション」などと言われ、バイオテクノロジーや自然エネルギーなどが経済を好転させていくトリガーとなっていくものと推察されますが、ソーシャルつまり社会は「人間」が構成しており、人口減少社会の課題をしっかりと認識しながら企業活動を展開する必要があると感じました。

最後にご参加いただきました各企業の労使の皆さまと講師の大泉先生に感謝を申し上げますとともに、次回以降の研究会へのご参加を宜しくお願い致します。

**内 容：大テーマ 社会の変化にどう向き合うか**

**第2回例会～第4回例会、14時半～16時 東北電労会館**

例会	日時	小テーマ	演題・講師
第2回	10月3日	ユビキタス社会	「様々なサービス提供が豊かさを伴うのか、その光と影」 サーバー大学教授 前川 徹 氏
第3回	翌2月6日	格差社会	「労働形態の多様化は何をもたらしたか」 国際労働財団常務理事 團野久茂 氏
第4回	翌3月6日	歴史から学ぶ	「社会の変化にどう向き合うか」 富士社会教育センター理事長 大松明則 氏

**第一義 ～音楽で復興支援～**

9月8日に仙台で開催されました第22回ジャズフェスティバルに初めて行ってきました。仙台には音楽のチカラで「心のバリアを打ち壊そう!」のテーマで「とっておきの音楽祭」や人や街の活性を目的に、“感謝”するゴスペルのスピリットで開催している「仙台ゴスペル・フェスティバル」が歌声市民祭典として開催されています。これらの実行委員会の皆さまとご存知仙台フィルオーケストラの皆さんは楽器や歌声を被災地に届けるために復興支援を継続しているそうです。改めて関係者のご努力に敬意を表すると共に、この文化的復興支援を大切に、そして仙台が音楽溢れる楽都として復興することを願ってやみません。(記S・Y)